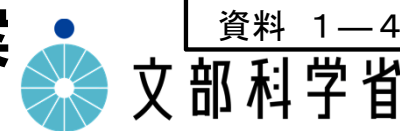


# 平成31年度当初予算案および平成30年度補正予算案 における準天頂衛星システムに関する主な取組

資料 1—4



文部科学省

平成31年度予算額案 1,527億円 平成30年度第二次補正予算額案 294億円※  
(平成30年度当初予算額 1,516億円)

※文部科学省における宇宙関係予算の額であり、準天頂衛星システムに関する取組に係る予算額を内数に含む

## ○ 準天頂衛星等の打上げに向けたH3ロケットの開発

我が国の自立的な衛星打ち上げ能力を確保するため、官民一体となって、多様な打ち上げニーズに対応した国際競争力のあるH3ロケットを開発する(2020年度試験機1号機・2021年度試験機2号機打ち上げ予定)。2022年度から2023年度にかけて、H3ロケットにより、準天頂衛星5～7号機を打ち上げ予定。

▶ H3ロケットイメージ



## ○ 準天頂衛星をはじめとする宇宙システム利活用のための人的基盤・科学的基盤の強化

衛星測位等の宇宙分野の裾野拡大を目的として、宇宙航空分野の発展を支える人材育成や宇宙科学技術と異分野シーズとの融合による新たなサービスの創出に係る技術開発を推進するとともに、大学や研究機関を中心とした産学連携による宇宙連携拠点を構築する。

▶ 地理空間情報・宇宙技術に関する講義のイメージ



▲アジア等における人材育成プロジェクトのイメージ(写真は、ネパールでの準天頂衛星を用いた災害時早期警報アプリの作成・実証の様子)

## ○ 測位システムの高度化等の将来を見据えた基盤技術研究

我が国の測位システムの高度化等を目指した基盤技術の研究開発を推進し、今後、大きく成長が予測されるアジア太平洋地域において、センチメートル級測位を可能とする補強信号の高精度化等にも貢献する。